

25	生活文化スポーツ局	東京文化戦略 2030 の実現に向けた事業
事業概要	令和4年3月に策定した東京文化戦略 2030 に基づく施策を展開し、「芸術文化で躍動する都市東京」を推進する。	
これまでの経過	<p>【東京文化戦略 2030 の策定】</p> <p>1 東京 2020 大会が終了し、新型コロナウイルス感染症の影響、持続・共生社会へのシフト、デジタル化の進展など、社会環境が大きく変化しているタイミングを捉え、令和4年3月、東京文化戦略 2030 を策定・公表（計画期間：令和4年度から令和12年度まで）</p> <p>2 策定にあたっては、東京芸術文化評議会で議論するとともに、「『未来の東京』戦略」とも連動</p>	
現在の進行状況	<p>【東京文化戦略 2030 の推進】</p> <p>1 地域で芸術文化に親しめる環境創出事業 令和6年度は3自治体と連携事業を実施し地域ニーズに即した芸術文化の鑑賞等の機会を創出するほか、都内区市町村との情報共有を目的とした東京都・区市町村文化行政ネットワーク会議を開催。また、文化施策の企画実施力向上を目的に区市町村等職員等を対象とした文化行政講座を実施</p> <p>2 現代アート振興 都内ギャラリーや美術館等が参加し、東京の現代アートの多様性やコミュニティ等を国内外に紹介するイベント「アートウィーク東京」の機会を捉え、アートスペースを巡る無料周遊バスの運行や子供・若年層向けガイドツアー、コレクター育成プログラム等を展開。また、美術・映像分野の若手アーティストを対象に作品を語る力とコンセプトの向上を目的とした伴走型支援プログラム「Tokyo Artist Accelerator Program」を令和5年度より開始</p> <p>3 スマート・カルチャー・プロジェクト アートとデジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮する活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京（CCBT）」を令和4年に開設。ワークショップや展覧会、映像作品などの発表等を実施。また、長期休館中の江戸東京博物館の収蔵品の新たな鑑賞体験を提供するスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」のリリースや、都立文化施設のデジタル化した約15万点の収蔵品を公開</p> <p>4 芸術文化支援事業 東京の芸術文化の魅力を世界に発信する創造活動の支援を目的に様々な助成プログラムを展開。また、アーティストの持続的な活動を支え、新たな活動につなげていくサポートセンター「アートノト」を令和5年に開設。都営住宅の空き店舗を活用した創作環境の整備等も令和5年度より展開</p> <p>5 TOKYO CITY CANVAS 都や民間の工事現場の仮囲いなどをキャンバスに見立てたアートプロジェクトを令和6年度より開始。4月に都立駒沢公園、9月には都庁第一本庁舎で公開。民間企業等が行う取組を対象とする新たな助成を7月に開始</p> <p>6 ネクスト・クリエイション・プログラム 子供たちが興味関心のある芸術文化領域のクリエイション現場に入り、第一線で活躍するプロフェッショナルから指導を受ける機会を提供するプログラムを令和6年度から開始</p>	

今後の見通し	<p>1 だれもが文化でつながる国際会議等 芸術文化による共生社会実現に向け、国際カンファレンス及び国内向けの会議を隔年で開催。令和6年10月29日～11月3日には「だれもが文化でつながる国際会議2024」を開催</p> <p>2 スマート・カルチャー・プロジェクト 都立文化施設の情報通信基盤整備や、デジタル化した収蔵品の公開、デジタル技術を活用したコンテンツ開発を引続き推進</p> <p>3 東京お台場トリエンナーレ2025 民間企業や関係機関と連携し、多様な魅力やポテンシャルを持つベイエリアを舞台とした、新たな国際芸術祭を令和7年に開催</p> <p>4 世界陸上とデフリンピックに向けた文化プログラム 東京2020大会のレガシーを継承・発展させた3つのアートプロジェクトを展開するほか、都立文化施設の環境整備や民間への助成等を通じて芸術文化へのアクセシビリティを向上</p> <p>5 芸術文化イベントの一体的プロモーション 世界陸上・デフリンピックの開催時期をとらえ、都内で開催される芸術文化イベントを集約し、一体的なプロモーションを国内外へ展開</p>		
	問合せ先	生活文化スポーツ局 文化振興部 企画調整課	電話 03-5000-7227